

ラトビア月報

【2023年3月】



2023年（令和5年）4月発行

在ラトビア日本国大使館

<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【政治】

- ・ 国会は2023年予算案を採択 (P. 1)

【経済】

- ・ 丸紅はスクルテのLNGターミナル建設に関心を示す (P. 1)

【外交】

- ・ カリンシュ首相のウクライナ訪問 (P. 3)

【その他】

- ・ プーシキンの記念碑撤去に反対して約200人がデモ (P. 7)

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料（原則として該当月の月末までの情報）を取りまとめたもので、在ラトビア日本国大使館の見解を述べたものではありません。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。

— 政治 —

【今月の注目記事】

◆国会は2023年予算案を採択

3月9日、国会は、歳入127億ユーロ（前年比20億ユーロ増）、歳出147億ユーロ（前年比22億ユーロ増）、財政赤字18億ユーロ（対GDP比4.2%）とする2023年予算案を採択した。優先分野は安全保障、教育、エネルギー、競争力強化・生活水準向上及び健康・公衆衛生等とした。予算額が前年より大幅増となった理由は、地政学的状況、エネルギー価格高騰に対する住民への支援及びウクライナ支援等としている。

◆大統領選挙を5月31日に実施

3月16日、国会議長団・会派評議会は大統領選挙を5月31日に実施すると決定した。国会議員は大統領候補を5月9日から13日までに擁立しなければならない。

◆春期国会を4月14日に開会することを決定

3月23日、国会は冬期国会を4月6日に閉会し、春期国会を4月14日に開会、春期国会を6月23日に閉会することを決定した。

— 経済 —

【今月の注目記事】

◆丸紅はスクルテのLNGターミナル建設に関心を示す

3月6日、チュダルス気候・エネルギー大臣はテレビ番組にて『Conexus Baltic Grid』社（天然ガスの貯蔵・輸送を行う会社）の株主である日本の丸紅がスクルテのLNGターミナル建設に関心を示していると述べた。同大臣は、気候・エネルギー省が現在スクルテLNGターミナルに関する政府の課題に関連して準備作業を行っていることを明らかにした。同大臣は今後数年間LNGの可能性は非常に大きく、（またLNGターミナルは）将来的にガスに代わる主要なエネルギーとなりうる水素の輸送にも適応させることが出来ると述べた。

◆2022年の平均月給は1,373ユーロ

3月1日、中央統計局は、2022年の平均月給は前年比7.5%（95ユーロ）増の1,373ユーロ、手取りの平均月給は前年比7.1%増の1,006ユーロとなったと発表した。

◆2022年のエア・バルティック・グループの売上は前年比2.5倍

3月3日、エア・バルティック社は2022年の同社グループ全体の売上が前年比約2.5倍の5億17万ユーロ、赤字が8150万ユーロ減の5420万ユーロだったと発表した。同年の

エア・バルティック社利用者数は前年比105%増の約334万人、運航便数は前年比59%増の約37,300便だった。

◆2023年2月の消費者物価上昇率は20.3%

3月8日、中央統計局は、2023年2月の消費者物価上昇率が前年同月比20.3%、前月比では0.6%になったと発表した。2022年と同様、2月の物価上昇は、主に住宅関連のエネルギー価格の上昇の影響を受けた。

◆2023年2月の失業率は6.3%

3月10日、国家雇用庁は2023年2月末の失業率は前月末比変化なしの6.3%になったと発表した。

◆ラトビア財務省は2023年のGDP成長率を前年比変化なし(0%)に上方修正

3月10日、財務省は2023年から2026年のマクロ経済のデータを更新した。2023年のGDP成長率をマイナス0.6%から0%に、2024年のGDP成長率を3.0%から2.0%にそれぞれ修正した。財務省による2023年から2026年のマクロ経済指標は以下の通り：

| | 2023年 | 2024年 | 2025年 | 2026年 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|
| 実質GDP成長率(%) | 0.0 | 2.0 | 2.9 | 2.8 |
| 消費者物価上昇率(%) | 10.0 | 2.2 | 2.5 | - |
| 失業率(%) | 7.1 | - | - | - |

◆欧州中央銀行は「Baltic International Bank」のライセンスを取り消し

3月10日、欧州中央銀行は11日より「Baltic International Bank」のライセンスを取り消すことを決定した。同決定はラトビアの金融・資本市場委員会の要請により行われた。2022年12月12日、金融・資本市場委員会は「Baltic International Bank」が破産している又はその見込みがあるとして、同銀行への金融サービスの提供を停止していた。

◆現在の消費者物価上昇率はロシアのウクライナ侵攻の影響以上

3月21日、カザークス・ラトビア中央銀行総裁はテレビのインタビューで「現在のユーロ圏及びラトビアの消費者物価上昇率の原因はもはや戦争ではない」と述べた。同氏によると、消費者物価上昇の第一波はエネルギー価格の高騰に起因するが、現在エネルギー価格が下落したにも関わらず、物価上昇が収まっていないのは小売業者が価格を釣り上げているため。一方で、消費者物価上昇率が年末までに10%未満になると予測している。

◆ラトビア投資開発庁はオーストラリアに事務所を設立

3月22日、ラトビア投資開発庁はオーストラリアのメルボルンに事務所を設立したと発表した。同事務所は2月末より業務を開始しており、既に、数十社に対してアドバイス

を提供している。2022年8月、ラトビアはキャンベラに在オーストラリア大使館を開館している。カザカ同事務所長によると、現在、EU・オーストラリア間のFTA締結に向けた最終段階にあり、ラトビアは世界市場で高い需要のある電子機器、バイオ医療及びデジタル化の分野が発展しており、近い将来、多くのラトビア企業の成功が期待できるとのこと。

◆GASO 社の一部の幹部を3月27日付で解任

3月23日、企業登録庁は、EUの対ロシア制裁を遵守するため、GASO社（天然ガスの一級家庭への運搬を担う会社）の一部の幹部を3月27日付で解任することを決定した。

◆4月1日から医療・保健機関職員の給与を増額

3月28日、政府は4月1日から医療・保健機関職員の月給を増額することを決定した。これにより、医師の平均給与は1,963ユーロから2,083ユーロ、看護師の平均給与は1,183ユーロから1,303ユーロ、補助員の平均給与は745ユーロから865ユーロに増額される。

◆ラトビア中央銀行は2023年の実質GDP成長率予測を0.3%に上方修正

3月31日、ラトビア中央銀行は、2023年3月のマクロ経済の見通しを公表した。消費者物価上昇率は2023年から2025年までの全ての期間において下方修正され、2023年は10.0%（10.9%）、2024年は2.7%（4.4%）及び2025年は2.6%（3.0%）と予測した。GDP成長率は2023年が0.5%（-0.3%）と上方修正、2024年が3.7%（4.4%）及び2025年が3.3%（3.5%）と下方修正された（括弧内は2022年12月予測）。

発表された主な指標の予測は以下の通り。

| | 2023年 | 2024年 | 2025年 |
|-----------------|-------|-------|-------|
| 実質GDP成長率（%） | 0.5 | 3.7 | 3.3 |
| 消費者物価上昇率（%） | 10.0 | 2.7 | 2.6 |
| 失業率（%） | 7.4 | 7.3 | 7.0 |
| 一般政府財政赤字（対GDP%） | 4.0 | 2.7 | 1.5 |
| 一般政府債務残高（対GDP%） | 41.6 | 40.0 | 39.8 |

— 外交 —

【今月の注目記事】

◆カリンシュ首相のウクライナ訪問

3月16日、カリンシュ首相はウクライナを訪問し、ゼレンスキー大統領、ステファンチュク最高会議議長、シュミハリ首相と会談した。カリンシュ首相はウクライナのロシアとの戦いにおいても、EU及びNATOにおけるウクライナの将来に関してもラトビアのゆるぎない支持を再確認した。ゼレンスキー大統領との会談で、ラトビアはGDP比でウ

クライナを最も支援している国の一つであると述べ、戦時中にも関わらず EU 加盟に向けてウクライナが改革を行っていることを称賛した。また EU 加盟交渉を今年中に開始することを支持し、NATO におけるウクライナの取り組みへの支援を保証した。また、イルピン及びブチャを訪問し、再建工事の視察や犠牲者の追悼を行った。

◆カリンシュ首相とショルツ独首相の会談

3月1日、カリンシュ首相はドイツを訪問し、ショルツ独首相と会談した。カリンシュ首相は、欧州における防衛産業の生産能力の増強とともに、ウクライナへの支援を継続する必要性を強調した。また今夏の NATO ヴィリニウス首脳会合では東部側面における NATO のプレゼンス強化を進展させる必要があると述べたほかロシアの犯罪を訴追するための国際軍事法廷設置の必要性を強調した。

◆レヴィッツ大統領のリヴィウ訪問

3月3日、レヴィッツ大統領はウクライナのリヴィウを訪問し、ゼレンスキー大統領と会談した。レヴィッツ大統領は、ロシアの侵略を経験したラトビアにとってウクライナを支援することは当然であると述べ、ロシアを撃退するためには軍事力を強化する必要があると強調した。両大統領は共同声明に署名した。

◆レヴィッツ大統領のアゼルバイジャン訪問

3月8日、レヴィッツ大統領はアゼルバイジャンを訪問し、アリエフ大統領と会談した。レヴィッツ大統領は、EU のエネルギー供給及び安全保障を強化する上でアゼルバイジャンの重要性を強調した。また同国のウクライナ支援を高く評価し、国際機関における今後の協力への期待を表明した。カラバフ情勢に関して、レヴィッツ大統領はラトビアの公式見解として、国際法の枠組みでアルメニアとの紛争を解決することが重要だと指摘した。

◆アンリ・ルクセンブルク大公殿下のラトビア訪問

3月13日、アンリ・ルクセンブルク大公殿下はラトビアを訪問し、カリンシュ首相、レヴィッツ大統領及びスミルテーンズ国会議長と会談した。レヴィッツ大統領は、ラトビアやルクセンブルクのような小国は共に団結し、国際秩序を変更しようとする侵略国の試みに対抗しなければならないと述べた。スミルテーンズ国会議長は、両国の建設的かつ友好的な関係を強化することに関心があり、NATO 及び EU 加盟国として大陸の平和を保証するためにもすべきことが多くあると述べた。両者はロシアのウクライナ侵攻は、独立、民主主義及び法の支配等の価値観を守ることの重要性を示していると一致した。

◆アセルボーン・ルクセンブルク外相のラトビア訪問

3月14日、アンリ・ルクセンブルク大公殿下の代表団の一員としてラトビアを訪問中のアセルボーン外相はリンケービッチ外相と会談した。リンケービッチ外相はルクセンブ

ルクがラトビアの軍事インフラ施設、特に NATO の強化前方展開部隊（eFP）への支援能力強化のために資金援助を行っていることに謝意を表明した。両外相はウクライナを支援し、戦後の復興や EU 統合に際し必要な援助を共同で提供するべきであると合意した。

◆フューリ加上院議長のラトビア訪問

3月13日、フューリ加上院議長はラトビアを訪問し、ルカシェヴィッツァ国会副議長、スミルテンス国会議長、リンケービッチ外相及びレヴィッツ大統領と会談した。ルカシェヴィッツァ副議長はカナダのバルト海地域全体の安全保障への貢献に謝意を表明し、NATO が東部側面でのプレゼンスを高めるという決定はラトビアにとって極めて重要であると述べた。スミルテンス国会議長との会談で、フューリ加上院議長は今回の訪問は、バルト地域の安全保障に必要な支援を提供し続けるというカナダのコミットメントを示すものだと強調した。リンケービッチ外相はカナダ主導の NATO 強化前方展開部隊（eFP）戦闘群が旅団規模に拡大することはラトビアの抑止力及び防衛力をさらに強化するために重要であると強調した。レヴィッツ大統領はカナダのこの地域の NATO 軍におけるリーダーシップを高く評価した。

◆カリンシュ首相のポーランド訪問

3月15日、カリンシュ首相はワルシャワ訪問しモラヴィエツキ首相と会談した。カリンシュ首相は、両国は地域の安全保障に関して共通のビジョンを持っており、緊密な協力関係にあると強調した。またウクライナが欧州の家族であることを明確に示すためにも今年中に EU は加盟交渉を開始し、またウクライナに加盟の機会を与えるためにも NATO の門戸開放政策を維持すべきだと強調した。

◆ペイチノビッチ＝ブリッチ欧州評議会事務局長のラトビア訪問

3月16日から17日、ペイチノビッチ＝ブリッチ欧州評議会事務局長は今年5月から欧州評議会議長となるラトビアを訪問しリンケービッチ外相及びレヴィッツ大統領と会談した。リンケービッチ外相は、ロシアが参加停止となった組織で同国市民が雇用されている状況は甘受できないとし、議長国として引き続き課題として扱うと述べた。レヴィッツ大統領は、ラトビアは欧州評議会が取り組んでいる補償メカニズム及びウクライナの損害登録機関の設立を支持すると述べた。

◆リンケービッチ外相の EU 外務理事会及び総務理事会出席

3月20日から21日、リンケービッチ外相はブリュッセルにて EU 外務理事会及び総務理事会に出席した。同外相は外務理事会でウクライナに継続的かつ長期的な軍事支援を行う必要があると強調し、またウクライナが条件を満たし次第、EU は加盟交渉を遅延なく開始すべきだと述べた。また第二回欧州人道フォーラムにも出席し、ラトビアは昨年、人道的支援のために400万ユーロを供与したと述べた。同外相は総務理事会で制裁回避を減ら

すためロシアに科した制裁をベラルーシにも適用するよう要請した。

◆スミルテーンズ国会議長らのルーマニア訪問

3月20日から21日、スミルテーンズ国会議長一行はルーマニアを訪問し、チウカ・ルーマニア首相ほかと会談した。同国会議長は、NATO マドリード首脳会合での決定を実行するためにも取り組むべきであると強調し、また地域の安全保障へのルーマニアの貢献に謝意を表明した。ロシアのウクライナ侵攻に関して、ウクライナへの支援を継続し、ロシアの責任を追及する重要性を強調した。また在ラトビア・ルーマニア大使館の設立を歓迎し、両国の経済協力の可能性に言及した。スミルテーンズ国会議長はルーマニアのシェンゲン圏加入及び OECD に加盟する取り組みへの支持を表明した。今回の訪問には、コルス外交委員長及びスプルーズ欧州問題委員長も同行した。

◆スミルテーンズ国会議長他のモルドバ訪問

3月21日から24日、スミルテーンズ国会議長一行はモルドバを訪問し、グロス議会議長と会談した。スミルテーンズ国会議長はモルドバの欧州統合が夢ではなく具体的な目標となったと述べ、そのためにラトビアはあらゆる支援を行うことを表明した。また同国がロシアのエネルギー資源への依存を克服し、ハイブリッド脅威に対する強靱性を強化したことを評価した。グロス議会議長は、ラトビアのこれまでの支援に感謝し、ラトビアの改革の経験に関心を有していると認めた。両者はウクライナへの支援を必要な限り継続することで一致した。

◆ヴェッラ・マルタ大統領のラトビア訪問

3月22日、ヴェッラ・マルタ大統領がラトビアを訪問し、レヴィッツ大統領、カリンシュ首相及びリンケービッチ外相と会談した。レヴィッツ大統領は、両国関係は良好であり、同志国かつ EU 加盟国であることを強調した。またマルタの国連非常任理事国としてのリーダーシップと取組を称賛するとともに、2025年のラトビアの非常任理事国入りへの期待を表明した。両大統領は、ロシアのウクライナ侵攻を非難し、特別法廷の設立の必要性について合意した。また多国間主義こそが世界平和の鍵であると説得するため、グローバルサウスとの対話を強化する必要性について一致した。

◆カリンシュ首相の欧州理事会出席

3月23日から24日、カリンシュ首相は欧州理事会に出席した。同理事会が今後12カ月間でウクライナに100万発の砲弾を提供すると保証したことについて、カリンシュ首相はEUの決定はラトビアの防衛産業の発展の機会を含むEUの軍事産業の強化に貢献するという点で重要であると強調した。そのほか、ICCがプーチン大統領等に逮捕令状を発行したことに触れ、これはロシア人高官を裁くための第一歩であり、特別法廷を設置することは、ウクライナに対する侵略犯罪を調査し起訴するための最も適切な解決法であると強

調した。またその他ユーロ圏指導者とともにラガルド欧州中銀総裁との会合にも出席し EU の経済・財政状況について協議した。

◆リンケービッチ外相のワシントン訪問

3月29日、リンケービッチ外相はワシントンを訪問しキーン下院外交委員会欧州小委員会委員長及びチャーマン国務副長官と会談した。キーン委員長との会談で、ヴィリニウス NATO 首脳会合について協議し、リンケービッチ外相は現在ラトビアに駐留する米軍のプレゼンス強化は非常に重要であると強調した。また、ラトビアのウクライナ支援について説明し、地域の安全保障、モルドバ及びベラルーシの状況について意見交換した。チャーマン国務副長官との会談で、リンケービッチ外相は特に 5G 技術の同盟内での安全な開発、製造及び流通を促進する現米国政権に謝意を表明し、ラトビアは完全に NATO 同盟内で開発・製造された 5G 機器を供給する用意があると述べた。また、ラトビアの国防費を 2025 年までに GDP 比 2.5%、2027 年までに 3%に増額すると説明するとともに、ウクライナにこれまで GDP 比 1.14%以上の軍事支援を行っており、今後も続けていくと約束した。リンケービッチ外相はロシアのモルドバ不安定化活動についても懸念を示した。

◆リンケービッチ外相のブカレスト 9 外相会合出席

3月30日から31日、リンケービッチ外相はポーランドで開催されたブカレスト 9 外相会合に出席した。同外相は侵略国ロシアとの戦いにおいてウクライナへのあらゆる支援を継続する必要性を強調し、NATO 同盟国側及びウクライナ側双方が長期的にウクライナとの戦略的パートナーシップを深化させる方法を模索することを要請した。またフィンランドとスウェーデン両国が早期に NATO へ加盟し、同盟がより団結し能力が強化されることへの期待を表明した。外相らは EU 加盟国がウクライナ軍事支援ミッション (EUMAM Ukraine) への関与を高め、EU の軍事能力、産業能力及び軍事機動性を改善することは NATO の集団的安全保障及び防衛力への重要な貢献となると強調した。

◆大手ソーシャルメディア企業への 8 カ国首相による公開書簡

3月30日、カリンシュ首相はモルドバ、チェコ、エストニア、ラトビア、リトアニア、ポーランド、スロバキア及びウクライナの各国首相と共同で大手 SNS 企業の CEO に対して、偽情報に対して効果的な対応を取るよう要請する公開書簡を発表した。同書簡では、敵対国は虚偽かつ操作的なナラティブを拡散するために SNS を利用しており、SNS 企業は悪意ある利用を防止するために対策を取るべきであると主張した。

— その他 —

【今月の注目記事】

- ◆プーシキンの記念碑撤去に反対して約 200 人がデモ

3月12日、「ラトビアのロシア連合」はクロンヴァルズ公園にあるプーシキンの記念碑撤去に反対して、リガ市議会前の広場でデモを行った。同広場には、「ラトビアのロシア連合」や「調和」の関係者等を含むロシア語系住民約200人が集まり、「プーシキンは文化の基礎である」等と書いたプラカードを持ってデモを行った。

◆2022年の犯罪件数は前年比3%増

3月1日、ルクス国家警察長官は国会国防・内務・汚職防止委員会で2022年の犯罪件数は前年比3%増の33,821件になったと述べた。増加の原因は軽窃盗罪の増加であり、重犯罪（特に、横領、マネーロンダリング、強姦及び性的犯罪）は前年比21%減少した。

◆オペラ歌手のスイリンシュ氏が東京新国立劇場のオペラ「ホフマン物語」に出演

3月15日～21日、世界的に有名なラトビア人オペラ歌手のエギルス・スイリンシュ氏は東京の新国立劇場でジャック・オッフェンバッハのオペラ「ホフマン物語」のリンドルフ、コッペリウス、ミラクル博士及びダペルトウット役を演じた。現在、同氏はラトビア国立オペラ・バレエ座の座長も務めている。

◆国連の「2023年世界幸福度報告書」でラトビアは第41位

3月20日、国連の「2023年世界幸福度報告書（World Happiness Report）」によると、ラトビアは去年の第42位から第41位に上昇した。リトアニアは第20位、エストニアは第31位だったため、ラトビアはバルト三国では最下位。上位3か国はフィンランド、デンマーク及びアイスランド、下位2か国はレバノン及びアフガニスタンであった。

◆82%のラトビア人は生活に満足している

3月22日、ユーロバロメーターによると、生活に満足しているラトビア人は半年前より6%ポイント上昇して82%となり、EUでは85%となった。国の状況が良いと思う人は半年前とほぼ同数の33%、国の状況が悪いと思う人は55%となった。ロシアのウクライナ侵攻に対するラトビア政府の対応に関しては、半年間でほとんど変化なく64%のラトビア人が対応に満足しており、EUと同様にラトビアでは81%の市民がロシアのウクライナ侵攻はEUに対する脅威だとみている。

◆ラトビア・オリンピック委員会は国際オリンピック委員会の勧告を受け入れず

3月28日、国際オリンピック委員会がロシアとベラルーシの選手について、国を代表しない個人資格の「中立選手」としての競技復帰を認めるよう勧告したことに対し、30日、ラトビア・オリンピック委員会はロシアのウクライナ侵攻が継続する中で、同勧告は受け入れられないと表明した。29日、チャクシャ教育・科学大臣は、ラトビアを含む欧州諸国、米国、カナダ、日本及びウクライナの共通見解を無視した国際オリンピック委員会の勧告は否認されるべきであると述べた。 (了)

2023年3月の主な出来事

| | 【内政】 | 【外交】 |
|----|-------------------|--|
| 3月 | 9日、国会、2023年予算案を採択 | <p>1日、カリンシュ首相、ショルツ独首相と会談(於ベルリン)</p> <p>3日、レヴィッツ大統領、ゼレンスキー・ウクライナ大統領と会談(於リヴィウ)</p> <p>8日～9日、レヴィッツ大統領、アゼルバイジャン訪問</p> <p>11日～15日、フューリ加議長、ラトビア訪問</p> <p>13日～14日、アンリ・ルクセンブルク大公殿下及びアセルポーン同国外相、ラトビア訪問</p> <p>15日、カリンシュ首相、ポーランド訪問</p> <p>16日、カリンシュ首相、ウクライナ訪問</p> <p>16日～17日、ペイチノビッチ＝ブリッチ欧州評議会事務局長、ラトビア訪問</p> <p>20日～21日、リンケービッチ外相、EU外務理事会及び総務理事会出席(於ブリュッセル)</p> <p>20日～21日、スミルテーンズ国会議長ら、ルーマニア訪問</p> <p>21日～24日、スミルテーンズ国会議長ら、モルドバ訪問</p> <p>22日、ヴェツラ・マルタ大統領、ラトビア訪問</p> <p>23日～24日、カリンシュ首相、欧州理事会出席(於ブリュッセル)</p> <p>27日～29日、リンケービッチ外相、ワシントン訪問</p> <p>30日～31日、リンケービッチ外相、ブカレスト9外相会合出席(於ワルシャワ)</p> |

ラトビア主要経済指標

GDP

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 Q1 | 出典 |
|-----------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|----------|
| 名目GDP | 百万ユーロ | 26,984 | 29,154 | 30,679 | 30,294 | 33,588 | 39,081 | - | 公式統計ポータル |
| 国民一人当たりGDP | ユーロ | 13,901 | 15,135 | 16,035 | 15,937 | 17,837 | 20,719 | - | 公式統計ポータル |
| GDP実質成長率(※) | % | 3.3 | 4.0 | 2.6 | ▲ 2.2 | 4.1 | 2.0 | - | 公式統計ポータル |
| 国民一人当たりGDP/EU平均 | % | 67 | 69 | 69 | 72 | 72 | 74 | - | EU統計局 |

(※)前年同期比(原数値)

財政収支, 政府債務残高

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 Q1 | 出典 |
|-------------|-------|--------|--------|--------|---------|---------|------|---------|----------|
| 財政収支 | 百万ユーロ | ▲ 208 | ▲ 245 | ▲ 174 | ▲ 1,315 | ▲ 2,351 | - | - | 公式統計ポータル |
| 財政収支対名目GDP比 | % | ▲ 0.8 | ▲ 0.8 | ▲ 0.6 | ▲ 4.3 | ▲ 7.0 | - | - | 公式統計ポータル |
| 政府債務残高 | 百万ユーロ | 10,493 | 10,784 | 11,209 | 12,711 | 14,688 | - | - | 公式統計ポータル |
| 政府債務対名目GDP比 | % | 38.9 | 37.0 | 36.5 | 42.0 | 43.6 | - | - | 公式統計ポータル |

失業率, 消費者物価上昇率, 月額平均賃金

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 Q1 | 出典 |
|---------------|-----|------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|----------|
| 失業率 | % | 8.7 | 7.4 | 6.3 | 8.1 | 7.6 | 6.9 | - | 公式統計ポータル |
| 消費者物価上昇率 | % | 2.9 | 2.5 | 2.8 | 0.2 | 3.3 | 17.3 | - | 公式統計ポータル |
| 平均賃金(グロス) | ユーロ | 926 | 1,004 | 1,076 | 1,143 | 1,277 | 1,373 | - | 公式統計ポータル |
| 平均賃金(ネット) | ユーロ | 676 | 742 | 793 | 841 | 939 | 1,006 | - | 公式統計ポータル |
| 最低賃金(月額, グロス) | ユーロ | 380 | 430 | 430 | 430 | 500 | 500 | 620 | 公式統計ポータル |

対内直接投資(FDI)

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 Q1 | 出典 |
|----------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|------|
| 海外直接投資残高 | 百万ユーロ | 14,744 | 15,337 | 16,053 | 16,810 | 21,228 | 22,590 | - | 中央銀行 |

貿易統計

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 Q1 | 出典 |
|---------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| 輸出(FOB) | 百万ユーロ | 11,647 | 12,773 | 12,966 | 13,305 | 16,452 | 21,342 | - | 公式統計ポータル |
| 輸入(CIF) | 百万ユーロ | 14,177 | 15,793 | 15,914 | 15,159 | 19,519 | 26,510 | - | 公式統計ポータル |
| 貿易収支 | 百万ユーロ | ▲ 2,530 | ▲ 3,020 | ▲ 2,948 | ▲ 1,854 | ▲ 3,067 | ▲ 5,168 | - | 公式統計ポータル |

日・ラトビア貿易(ラトビア政府統計)

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 Q1 | 出典 |
|---------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|----------|
| 日本への輸出 | 千ユーロ | 50,526 | 53,343 | 56,637 | 50,099 | 76,889 | 83,781 | - | 公式統計ポータル |
| 日本からの輸入 | 千ユーロ | 22,282 | 25,668 | 27,999 | 21,738 | 24,490 | 26,794 | - | 公式統計ポータル |
| 対日貿易収支 | 千ユーロ | 28,244 | 27,675 | 28,638 | 28,361 | 52,399 | 56,987 | - | 公式統計ポータル |

日・ラトビア貿易(日本政府統計)

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 Q1 | 出典 |
|-----------|-----|-------|---------|---------|---------|---------|----------|---------|-------|
| ラトビアへの輸出 | 百万円 | 7,573 | 7,325 | 5,794 | 4,459 | 5,809 | 4,343 | - | 財務省統計 |
| ラトビアからの輸入 | 百万円 | 8,017 | 8,847 | 8,868 | 8,650 | 10,088 | 16,769 | - | 財務省統計 |
| 対ラトビア貿易収支 | 百万円 | ▲ 444 | ▲ 1,522 | ▲ 3,074 | ▲ 4,191 | ▲ 4,279 | ▲ 12,426 | - | 財務省統計 |

両国間の訪問者数

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 Q1 | 出典 |
|---------------|----|--------|--------|--------|-------|------|-------|---------|----------|
| ラトビア→日本 | 人 | 2,487 | 2,551 | 2,701 | 393 | 197 | 631 | - | 日本政府観光局 |
| 日本→ラトビア(宿泊統計) | 人 | 24,576 | 29,534 | 20,416 | 2,358 | 396 | 1,229 | - | 公式統計ポータル |

(注)ラトビアは2014年1月1日ユーロを導入した。2023年3月末現在、1ユーロ=146円程度。

(2023年4月3日まで公表分のデータ)